敵基地攻撃能力・大軍拡ストップを訴える演説例

２０２３年２月２日　　埼玉県委員会

　みなさん、こちらは日本共産党です。日本共産党の政策をお話しさせていただきます。よろしくお願いします。みなさん、岸田政権は昨年末に、「安保３文書」を一方的に閣議決定し、敵基地攻撃能力の保有・大軍拡の道に踏み出そうとしています。この大軍拡の財源として、私たちのくらし、社会保障が削られることになります。私たちは党をつくって１０１年、反戦・平和をブレずに貫いてきた党として、この「戦争国家づくり」を食い止めるため全力を挙げる決意です。みなさんの大きなご支援を日本共産党にお寄せください。

　みなさん、岸田政権がすすめる敵基地攻撃能力の保有、「反撃能力」の中身は一体どういったものでしょうか。「備えあれば憂いなし」と言いますが、本当にそうでしょうか。岸田首相は、「反撃能力」の名のもとに、長射程ミサイルを買い揃えようとしています。いまの２倍の軍事費をつぎ込み、アメリカや中国に次ぐ世界第３位の軍事大国になります。「備えあれば憂いなし」などといった生易しいものではまったくありません。「反撃能力」と言っていますが、これは相手国の中枢にミサイルを撃ち込み、壊滅的に破壊する、これが敵基地攻撃能力の正体です。こんな物騒な兵器では、備えれば備えるほど周辺国も身構えて緊張が激化します。そして、それは「備えあれば憂いなし」とは真逆の結果になってしまいます。

　みなさん、岸田首相は、「自分の国は自分で守るのは当然だ」と言います。これも本当にそうでしょうか。日本が他国を上回る軍拡を進めれば、相手国とされた国は軍事的威嚇をやめるのでしょうか。逆に日本の軍拡に反発し、さらなる軍事力の強化に走ることになるでしょう。軍拡は、「日本を守る」どころか、「軍事対軍事」の悪循環を招き、「戦争」に近づいてしまうのではないでしょうか。そして、みなさん、この敵基地攻撃能力、大軍拡の一番の問題は、日本への攻撃がなくてもアメリカが海外で戦争を始めたら、自衛隊が米軍と一緒になって「敵基地攻撃」をおこなうことになるということです。日本が攻撃されていないのに、他国にミサイルを撃ち込むことになります。当然、そのような事態になれば、報復攻撃で日本の焦土化を招くことになるでしょう。「自分の国は自分で守る」どころか、アメリカの戦争に日本を巻き込む、これが今回の大軍拡の実態です。

　それではみなさん、軍事に頼らず、どうやって日本の平和と安全を守っていけばいいでしょうか。「ミサイルを撃ち込まれたらどうする」「攻められたらどうする」と心配する声もあります。どうしたら戦争の心配をなくすことができるのでしょうか。私たち日本共産党は、戦争を起こさせないことこそが政治の責任だと考えます。そのために外交に知恵と力を尽くすことが重要です。評論家の故・加藤周一さんはかつて「戦争の準備をすれば戦争の確率が高まる。平和を望むなら平和の準備をすべきだ」と語ったことがあります。私たち日本共産党は、日本も中国もアメリカも包み込む平和の枠組み―「外交ビジョン」を提唱しています。これは、絵空事ではなく、現にある枠組みを生かして発展させ、平和を築いていくものです。東南アジア諸国連合、ＡＳＥＡＮは、日米中ロなど８カ国を含む「東アジア首脳会議」を毎年開き、この枠組みを強化して、東アジアを戦争の心配のない地域にしようと努力しています。憲法９条をもつ日本こそ、この取り組みに率先して力を発揮していくことが必要でないでしょうか。

　みなさん、岸田首相が進める敵基地攻撃能力、大軍拡は「専守防衛」を完全に投げ捨て、「自分の国は自分で守る」というものではありません。いま、この大軍拡に、立場の違いを超えて、反対の声が広がっています。自民党の元幹事長ですら「意義あり」と声を上げています。また、芸能界からもタモリさんのように「新しい戦前になる」ことへの懸念が表明されています。みなさん、この大軍拡をストップさせるために、力を合わせていきましょう。大軍拡ストップの署名をおこなっています。ご協力をお願いします。

最後になりますが、日本共産党が発行する「しんぶん赤旗」は大軍拡反対の世論をつくり、新しい政治への希望がわく新聞です。ぜひこの機会に「しんぶん赤旗」のご購読をお願いします。以上で、日本共産党からの訴えを終わらせていただきます。ありがとうございました。